

町政を問う



12月定例会の初日(12/5)に次の事項について一般質問が行われました。

- ◆ 中村 忠行 議員 ① 金山版CCRC構想について
- ◆ 沼澤 道也 議員 ① 農業担い手対策と農地管理について
② 岸 宏一氏の銅像建立について
- ◆ 須藤 典夫 議員 ① 「金山道路」完成後の金山町はどのようになっていくのか
② 商店への活性化支援策を打ち出せないか
- ◆ 高橋 浩樹 議員 ① 金山町職員採用試験募集要項について
- ◆ 早坂 憲明 議員 ① 診療所について
② がん特異的揮発性バイオマーカー同定研究事業について

※質問の順序は通告順となります。

【一般質問とは】

年4回の定例会で行う。議員が町の行政全般について、事業執行の状況や将来の方針等について所信を質し、あるいは報告や説明を求めるなどの政策論議の場である。

町議会では、質問要旨を事前に通告することとし、60分という限られた時間内で、大所高所からの建設的で簡明な質問が求められている。

CCRC構想の進め方は

回答 「将来も住み続けたい町」を目指す



中村 忠行 議員

金山版CCRC構想とは

中村忠行議員 移住希望者が他自治体と比較し、金山町を選択する住居や仕事・余暇をアクトタイプに生活する施策は。

川崎総合政策課長 構想の基本目標は、「全世代が希望を持って生涯活躍でき、将来にわたり豊かな心で、安心して暮らせる町」を目指すものとし、「住まい」「ケア」「活躍」「移住」「コミュニティ」の各分野で「つながり」「安心」「希望」をキーワードに、町に住んでいる方、町に移住する方に寄り添った行政サービスと支援体制を整

備し、健康で生き生きとした生活が送られるようにするものである。特に、若い方から高齢者の方々までの全世代における「住まい対策」「移動手段対策」「買い物支援」「雪対策」などは、専門検討委員会などで検討しながら、今後の人口減少への対応や生活支援体制整備を図っていくものとしている。

移住希望者が金山町を選択するためには、町に魅力があり、その魅力がきちんと伝わっていることが重要と考え、「将来も住み続けたい町」であることが金山版CCRCを進める上での大切な視点になる。

既存の施設や現在進めている施設などを有効に活用し、雇用の場の提供など、必要に応じて民間企業との連携を図りながら、金山町の規模に見合った事業展開を図りたい。

住居の確保を

中村議員 雪などの不安から冬期間だけでも支援がある住居へ入居したいとの声を聞くが、診療所4階を住居として活用できないか。

総合政策課長 今後CCRCの推進により移住促進を図った場合、空き家の利用を含め、受け皿となる住居が不足することが考えられる。現在実施設計を進めている定住促進住宅の利用を含め、住まいの確保について考えていく。

診療所4階の活用は、個室にしなければならぬことや、バス・トイレの設置などの規制がある。みずぎ荘に付随している生活居住部門を分離して診療所に整備することは可能と考えるが、厚生労働省との調整が必要となる。

丹健康福祉課長 高齢者生活支援ハウスの需要過多の傾向は今後も続くと思料している。これを喫緊の課題として

て捉え、適正な居室数やその在り方も関係者と情報交換し、「定住促進住宅整備事業」も注視しながら考えたい。

中村議員 移住者と地域コミュニティとの橋渡し役としての町の関わり方は。

ねたきり老人等移送サービス助成の見直しは

中村議員 介護タクシーの利用者負担が大きいの声があるが、見直しできないか。健康福祉課長 先行自治体を参考に導入し、水準としては高いと認



体験住宅で移住促進

識しているが、1回あたり2枚という上限が現状として見合うのかとともに、より効果的な使用をして頂ける仕組みを考える中で、その額も検討していきたい。

関連質問

- ・雇用の場の提供は。
- ・交通手段の確保策は。
- ・診療所の売店の拡充を、町外に向けてのPR方策は。
- ・支援が必要になった場合に不安無く生活できる支援策は。